

Title	The Intelligent Man's Review of Europe To-day, by G. D. H. Cole, M. I. Cole, London, 1933
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1933
Jtitle	史学 Vol.12, No.4 (1933. 12) ,p.163(743)- 164(744)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19331200-0164

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

般の讀物としてかく歓迎せられてゐることは歴史教育の宜しきを得たことの成果であるとして吾人の羨むべき所である。

たゞし本書と雖も部分的には瑕疵なしとしなう。その一つだけを指摘して置かう。教授はロンドン・キーンの亂の終末を記して

L'anniversaire du dernier combat (27 mai 1871) continue à être célébré par une manifestation socialiste au "mur des Fédérés." (p. 452.)

と記してゐる。その記述には誤植と見らるべき性質のものではない。即ち同氏の著書から踏襲せられたものかといふ。

Le dernier combat se livra au cimetière du Père-Lachaise le 27 mai. (Histoire politique de l'Europe contemporaine, 7e éd. Tome I. 1924. p. 224.) とならば、その誤植はあつた。その日は二十七日ではなく二十八月とあるのである。例へば、同一の記事 Even today these memories, yearly revived by a demonstration at the Mur des Fédérés..... on the 28th of May, remain vivid among our people. (Guignebert, Vol. II. p. 630)

But Mac-Mahon's preparation to attack caused them to think better of it and they surrendered on the 29th. However, the battle in Paris was over on Sunday the 28th. (E. S. Mason, the Paris Commune, 1930. p. 295) の如くに記されて居り、大ラルースにも、大英百科辭典にもこれが五月二十八日となつてゐる。又ラロンスの著は之を一層明確にして、

La bataille expirait, au cours de la nuit du 27 au 28, un combat atroce, de tombe à tombe, avait arraché le Père-La-

chaise aux Fédérés. (G. Laronze, Histoire de la Commune de 1871, d'après des documents et des souvenirs inédits. 1928. p. 628)

と記してある。されば、二十七日の夜から二十八日にかけて行はれた戦争を、二十七日或は八日とすることの是非を言はないとしても、毎、社會主義者によつて行はれる示威運動はその何れかの日でなくてはならぬ。(間崎万里)

The Intelligent Man's Review of Europe To-day,

by G. D. H. Cole, M. I. Cole, London, 1933.

私は自分のために、又學生諸君のために手頃なヨーロッパ最近世史に關する書物を探めようと思つたのである。

先般、出づかシヤクソン氏の著述 (J. Hampden Jackson's Europe since the War, 1933. PP. 144) を、『戦後ヨーロッパ』(一九一八年乃至一九三二年間)の政治的發展を要領よく簡単に取扱つたもので、我が芹田氏の著述(本誌第十一卷三號書評欄参照)に對比すべきものであるが、それよりも稍詳細で、且つ諸般の方面に互つて記述せられてゐるのが表題の本書である。

本書に於ては、ヨーロッパの概念からその大戦後に至るまでの歴史的沿革が先づ記述せられ(一七一―一三四頁)、次いでその諸國の地理的狀勢(一三五―一三九四頁)、更に經濟狀態(三九五―五六四頁)、及び政治制度(五六五―六九七頁)が説かれ、最後の二篇

で國際關係(六九八—八〇六頁)とヨーロッパの見解(八〇七—八三四頁)が述べられてゐる。

前者はヨーロッパの事情に精通せる新聞記者の筆になるものであるが、後者がオックスフォード大學の講師であつて、經濟問題、社會問題、勞働問題の著者として盛名があり、多數の著述を出せることは(邦譯も數多ある)周知の通りである。ヨーロッパの現状を大觀するのには、この兩者を併讀することが最も捷徑である。四六判八六四頁で時價五圓とは、甚だ廉なりと言ふべきである。(間崎万里)

Memoirs of the Faculty of Literature
and Politics Taihoku Imperial University,
vol. II. No. I Sinkan Manuscripts
新港文書, by Naonjirō Murakami, published
by the Taihoku Imperial University April,
1933.

臺北帝大教授村上直次郎博士は、明治卅年臺灣旅行の途次ローマ字にて記したる臺灣語文書の存するを聞き、之を卅九種謄寫せられたが其後臺灣に於て蒐集せられし同種文書、及び西人の研究中に發表せられしもの全部一種を集め、之を新港文書として發表されたのが本書である。新港は十七世紀初頭蘭人と接觸したる生蕃人部落の名であり、蘭人の保護の本にあり、彼等の教師よりローマ字をもつて土語を綴ることを學んだのであるが、今日最早

支那人と同化消滅してをる。博士は、序に於て、その文書が賣買、入質、讓與の券であることを述べ、例としてその中三種を支那文により英譯してをる。また本文書の言語學的研究は、小川尙義教授により、本報告の二卷に發表せられると斷つてをられる。文書中には新港文書の外に附近部落のもの十四種あり、また附録として臺北博物館所藏の當時の寫生の一小手引き、ユトレヒト圖書館所藏蘭語土語對譯字書、諸羅縣志拔萃土語々彙、小琉球漫誌拔萃下淡水方言語彙を添へてをる。初期生蕃語研究の好資料として歡迎すべき有益な出版物である。(松本信廣)

寄贈交換圖書雜誌目錄

- 今西 龍 新羅史研究 東洋文庫
- 花山信勝 法華義疏の研究 東京考古學會
- 考古學年報 第二輯 臺北帝國大學
- 文政學紀要 第二卷第一號 朝鮮總督府
- 古蹟調査報告(大十三、昭七)
- 牧野信之助 越前若狹古文書選
- 會津八一 法隆寺法起寺法輪寺建立年代の研究 東洋文庫
- 忌宮神社文書 防長史談會
- 飛彈の傳説と民謡 高山西小學校研究部
- 岡部長景編 メートル法強制執行反對意見集
- 西村眞次 日本古代經濟 市場 東京堂刊行
- 東京の都心調査 明大史學科
- 史學論叢 立正大學史學會